

## 9組が創造性豊かな作品発表

宮城県小学生プログラミング大会2024が10月13日、仙台市太白区の東北工業大学八木山キャンパスで開かれた。「みんなの未来」をテーマに、小学生の自由な発想でプログラミングを楽しんでもらうのが狙い。全国選抜小学生プログラミング大会宮城県予選を兼ねる。事前審査を通過した9組が出場。最優秀賞・清水建設賞には大崎市の矢端千佳さんが輝き、東京で来年3月開催の全国大会に進出する。



大会の最後に笑顔で記念撮影に応じる出場者

# 「みんなの未来」へ個性発揮

- 大会出場者 ※賞順・発表順
- 最優秀賞・清水建設賞**  
矢端千佳さん 大崎市立古川第三小学校 5年  
日本の農作業の未来  
～ロボットによる食糧不足の解決～
  - 優秀賞**  
阿部新さん 大河原町立大河原小学校 5年  
初めて作ったプラットフォーム
  - 優良賞**  
永沢旭基さん 仙台市蒲町小学校 6年  
分別ゴミshoot
  - 審査員特別賞**  
香味宙樹さん ホライゾン学園仙台小学校 4年  
次世代ハイパーおたすけロボ
  - ファイナリスト賞**  
鈴木禾乃さん 仙台市立中田小学校 5年  
jewelry

- ファイナリスト賞**  
千枝南月さん 仙台市立上杉山通小学校 4年  
大乱闘LOVEブラザーズ

- ファイナリスト賞**  
「TEAM月メン」 バレッドキッズ志津川教室/  
佐々木鈴生さん 南三陸町立志津川小学校 6年  
高橋美玲さん 入谷小学校 6年  
高橋心佳さん 志津川小学校 5年  
SDGsクイズ  
～2030年までに自分たちができること～

- ファイナリスト賞**  
「プログラ34」  
高橋晟多さん 仙台市立向陽台小学校 4年  
加藤瑞基さん //  
渡邊佑紀さん //  
スクールライン向陽台線

- ファイナリスト賞**  
大槻一登さん 仙台市立加茂小学校 1年  
雪かきロボット

大会WEBページ  
大会当日の発表動画や写真をご覧いただけます。



### 最優秀賞・清水建設賞

#### 日本の農作業の未来 ～ロボットによる食糧不足の解決～



**矢端 千佳さん**  
祖父が体を痛めて農業をするのが難しくなったことをきっかけに考えました。日本の食糧自給率は下がる一方で、農業者は60歳以上の人が増えることが予想されます。農業者の負担をできるだけ少なくしようと、田畑にMicrobitを設置し自動で水やりや気温観測ができ、鳥を追い払い、パソコン上で田畑の状況を教えてくれるシステムを作りました。農林水産省もロボットやITを使った農業・スマート農業を研究しているそうです。将来、食糧不足にならないように私もロボットやITで農家の皆さんを助けられるようになりたいと思います。

小学生のアイデアに富んだ発表に聞き入る来場者

「成長の跡見られる」  
2年連続出場し、自分が好きな「鉱物のこと」をもっと多くの人がよく知ってもらうためのゲームを作成した。発表は1組3分以内。4

小学生は前回との違いや工夫した点を説明。審査員からは「簡単だとゲームとして面白くなく、適度な難易度だ」と思う。成長の跡が見られる」と評価された。

今年も県内の個人・団体を対象にプログラミング作品を募集し、事前審査を経た9組が発表の舞台に臨んだ。開会あいさつで、河北新報社の今野俊宏常務は「皆さんの発表を心待ちにしている。緊張していることと思うが、全国大会を指して頑張るとともに、楽しい一日にしてほしい」と激励した。

た小学生は前回との違いや工夫した点を説明。審査員からは「簡単だとゲームとして面白くなく、適度な難易度だ」と思う。成長の跡が見られる」と評価された。仙台市地下鉄東西線を参考にした「スクー」に、通学用の電車「スクー」をテーマにしたチームは、審査員の「電車の作品は今回が初めてだ」と思う。効果音やアナウンスなどリアルで良かった」との感想を聞き、笑顔になった。

#### 審査総評

##### 挑戦することで自信が付く



東北工業大学 工学部電気電子工学科 教授  
室山 真徳氏

大学の教室の壇上で大勢の人の前で発表する機会はなく、緊張したと思う。今回は全体のレベルが安定しており、大会当初よりも上がっている。初めは作りたいものを作っただけだと思うが、事前審査の指摘を受けてレベルがより上がり、対応力も良かった。目的を決めて締め切りがあるものにチャレンジすることは自信が付く。皆さんには継続してプログラミングに取り組んでほしい。

#### 閉会あいさつ

##### 熱中することは素晴らしい



東北工業大学 教授  
副学長 建築学部長  
石井 敏氏

褒めたいことが三つあります。まず一つ目はプログラミングに対し、情熱を持って取り組んでいるということ。熱中するものを持つのは素晴らしく、今以上に熱心に取り組んでほしい。二つ目は大会という目標に向かってチャレンジする姿勢です。三つ目はこういった場で発表すること。この経験が自信につながると思います。ぜひ今後に生かしてほしいと思います。

主催/河北新報社、東北工業大学、全国新聞社事業協議会  
後援/文部科学省、経済産業省、総務省東北総合通信局、デジタル庁、宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会  
協力/株式会社共同通信社、仙台南高等学校  
特別協賛/清水建設株式会社



本大会は、一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会(SARTRAS)の共通目的基金の助成を受け実施されています。